

道東太平洋海域で最近採集された珍しい魚

○はじめに

水産試験場では、普段見かけない魚を調査で採集したり漁業者等から提供いただいたりした際、種類を同定し記録しています。これらは分類学的な希少種であることもありますが、普通種が通常の分布域を外れて採集されるケースもあります。希少種の出現は海洋環境の変化に伴うことがあり、重要産業種であっても通常見られない海域に現れることはその種の資源変動を示唆することがあります。これらを記録しておくことは海洋環境や漁業資源のモニタリングという観点からも意義があります。

今回は釧路水産試験場が担当する道東太平洋海域で最近採集された珍しい魚を紹介します。

○ソトオリイワシ *Neoscopelus macrolepidotus* 体長 23.1cm

2012年4月23日 釧路沖水深500m 釧路市漁業協同組合 新谷正徳さん提供

イワシといってもハダカイワシの仲間の深海魚で、深海魚特有の薄緑色に光る眼や腹縁に並んだ発光器がよくわかります。ハダカイワシ類は数cm程度の小型種が多いのですが、本種は20cm以上に達し赤いヒレと相まってとても目立ちます。なお、この類の魚は人間が消化できない油脂を含むものが多いため、食べるべきではありません。



○ミツクリエナガチョウチンアンコウ *Cryptopsaras couesii* 体長 19.9cm

2012年5月31日 道東太平洋海域 釧路市漁業協同組合 新谷正徳さん提供

奇怪な姿をした深海魚代表のような魚です。名前の由来となった「柄長提灯」である誘引突起は取れてしまっていますが、良い状態の標本です。ともあれ、食べてみる気になるものではありません。この個体を含め大きめの個体はすべてメスで、矮雄（わいゆう）という数cmほどのオスがメスの体表に噛みついて寄生し、やがて器官が退化して埋没していくという怪談のような生態が知られています。



○クロメダイ *Lichthys lockingtoni* 体長 34cm

2012年10月4日 釧路沖表層 試験調査船北辰丸の流し網調査で採集

「北水試だより」第65号で紹介したドクウロコイボダイと同様イボダイの仲間ですが、本種も外洋性の珍しい魚で全く利用されていません。イボダイ類はメダイやマナガツオなど重要産業種も含まれるグループで、クラゲ類との生態的なつながりが極めて強いことが知られています。餌として食べるほかに、稚魚期にはシェルターとして利用するようです。お菓子の家のようなものでしょうか。体表の厚い粘液層でクラゲの刺胞による攻撃を防いでいるといわれています。



○ツボダイ *Pentaceros japonicus* (稚魚) 体長 7cm

2013年6月4日 釧路沖表層 試験調査船北辰丸にて、たも網で採集

産業重要種として知られるクサカリツボダイ *Pseudopentaceros wheeleri*と同様に、本種もスズキ目カワビシャ科に属します。本種は、体高が高いことや背鰭棘条数が少ないことでクサカリツボダイと識別できます。今回採集されたのは幼魚であり、成魚にはない頭部骨質突起と雲形斑紋があります。これらの突起と斑紋は体長 10cm になる頃までにはなくなることが知られており、その頃には生活環境を表層から底層へ移すのではないかと考えられています。



○さいごに

最後になりますが、これらの標本を確保・提供して下さった関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。普段見かけない魚がまたとれたら、ぜひお願いいたします。

(釧路水産試験場 調査研究部 吉村圭三・稲川亮)